

6月17日の礼拝メモ

## 『神と私の出会いの場所イエス』

ヨハネの福音書 2:13~22

この神殿をこわしてみなさい。 わたしは、三日でそれを建てよう。

### 序]

19節が今日の中心聖句。このイエスの言葉をユダヤ人たちも、弟子たちも理解できなかった。しかし、弟子たちはイエスの復活を体験してから、その言葉の意味を理解し信じた。我らも、復活の主を現実のお方とする霊的経験をすると、聖書にある客観的真理が、俄然、体験的事実となる。我らもこのより高い経験に達したい。

### 本]

#### I イエスの言葉の真意

イエスは、神殿を自身のからだにたとえた。ゆえに、19節の真意は、「神殿をこわす」=十字架につく。「三日で建て直す」=三日目に復活する。

イエスの霊的真理は彼らに通じなかった。

#### II なぜ、イエスはエルサレムの神殿と自身のからだを関連付けたか

イエスは、神と出会う場所としての神殿にご自身が取って代わるために、この世に来られた。神の御子が人となってこの世に来られたから、これまでの礼拝儀式が大きな変化を遂げた。祭壇→幕屋→神殿→会堂→教会。大切なことは、これらが神の臨在の象徴として捉えられていた点にある。

#### III 神殿とイエスの違い

「神殿をこわしてみよ。三日でそれを建て直す」と言われたとき、イエスが強調したことはこうである。「あなたがたが神の臨在として覚えてきたこの神殿は、やがて消えてなくなる。しかし、象徴ではない、本物の神であるわたしは永遠に存在する。だから今後はエルサレムが中心なのではなく、わたしが中心である。人種も国籍もすべてを越えて、あなたがたはいつでも、どこでも神を礼拝できるようになった。」

「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(マタイ28:20)  
我らは驚くべき恵みの時代に生きている。

### 結]

ユダヤ人たちは、神の臨在の象徴である神聖な神殿でなにをしていたか？商売である。

①我らは、礼拝に余計なものを混入していないだろうか？雑念、心配事、罪をもったままでは礼拝にならない。

②我らの礼拝の中心にイエスがいるだろうか？復活の主に触れていただくことなしに一週間を始めることは自殺行為である。我らは本気で主を求め、主に出会って一週間を始めるべきである。

そして、いつでもどこでも礼拝を捧げることは可能である。ディボーションは個人礼拝である。イエスとの生きた交わりの深まりが、世の生活でものを言う。